

定山溪国道 道路は公園のように

定山溪国道を支える5つの構造物群

定山溪国道は、札幌と中山峠を結ぶ重要な道路として整備されました。急峻な地形と厳しい冬の自然条件の中で、安全な通行を確保するとともに、走行のしやすさや周囲の景観への配慮を重視した設計が行われています。無意根大橋、薄別回廊、薄別トンネル、仙境覆道、定山溪トンネルなどの構造物には、当時として先進的な道路設計の思想が取り入れられており、機能性と景観性を兼ね備えた特徴的な道路構造物群を形成しています。

完成当時の定山溪トンネル

無意根大橋

自然のパノラマを楽しむ曲線橋

無意根大橋は、半径140mの急なヘアピンカーブの先端に位置する曲線橋で、谷底から約35mの高さに架けられています。定山溪国道は、北海道で初めてクロソイド曲線が採用され、自然なハンドリングで安全に走行できる道路線形が実現しました。橋脚にはフレキシブルピアの考え方が採用され、走行性と構造の安定性を両立しています。橋の上からは周囲の自然景観を一望することができます。

薄別回廊

雪崩と落石から道路を守る回廊

薄別回廊は、無意根大橋と薄別トンネルの間に設けられた防護構造物です。急峻な斜面に沿って設けられたラーメン構造により、落石や雪崩から道路を守る役割を果たしています。道路線形にはクロソイド曲線が採用され、運転しやすさと地形への配慮が両立されています。また谷側を開放した構造となっており、走行しながら周囲の自然景観を楽しむこともできることも特徴です。

薄別トンネル（ワニの口）

雪対策から生まれた独特の坑口デザイン

薄別トンネルの中山峠側坑口は、独特の形状から「ワニの口」と呼ばれています。急斜面の直下に位置する坑口では落雪や雪庇への対策が必要であり、屋根を二次放物線形状に跳ね上げることで雪が道路へ落ちないように設計されています。また、トンネル出口がカーブ橋に接続するため視距を確保する目的で坑口を大きくえぐった形状となっており、機能性と造形性を兼ね備えた構造となっています。

仙境覆道

曲線美が特徴の片持ち式覆道

仙境覆道は、落石や雪崩から道路を守るために設けられた覆道で、全体が曲面で構成された片持ち式構造が特徴です。放物線状の屋根形状はロータリー除雪車による除雪作業を考慮して設計されており、冬季の維持管理にも配慮されています。谷側を開放した構造となっているため、走行しながら周囲の自然景観を楽しむことができ、機能性と景観性を兼ね備えた構造物となっています。

定山溪トンネル（ルーバー）

光を取り込むルーバー構造のトンネル

定山溪トンネルの坑口には、雪崩対策のための放物線状アーチと、明暗順応を緩和するルーバー構造が設けられています。ガラスブロックを用いたルーバーは、トンネル出入口での光の変化をやわらげ、運転者が自然にトンネルへ入れるよう工夫されたものです。また、入口はベルマウス型に広げられており、トンネル進入時の圧迫感を軽減するデザインとなっています。

[森を抜ける公園のような道 | 秀逸な道【公式サイト】](#)

<https://roads.scenicbyway.jp/route11.html>